

第 9 3 回東北地方交通審議会  
船 員 部 会 議 事 要 録

平成 2 8 年 7 月 2 2 日  
東 北 地 方 交 通 審 議 会  
船 員 部 会 事 務 局

# 東北地方交通審議会

## 第 9 3 回 船員部会

日 時 平成 2 8 年 7 月 2 2 日 (金) 1 5 : 3 0 ~

場 所 仙台第 4 合同庁舎 4 階会議室

出席者 公益委員：長谷部部会長、高橋(真)部会長代理、  
佐々木委員(欠席)、森委員  
労働者委員：正路委員、鈴木委員、高橋(雅)委員  
使用者委員：佐藤委員、鶴本委員(欠席)、平岡委員  
  
運輸局：菅原海事振興部長、阿部海事振興部次長  
峯田船員労働環境・海技資格課長(欠席)  
澤村船員労政課長、佐々木労政係長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について  
  
(2) その他

### 配付資料

- 資料 1 船員職業安定業務取扱状況説明資料(平成 2 8 年 4 月分)
- 資料 2 新規求人・求職数(東北管内：3 年対比)
- 資料 3 有効求人・求職数(東北管内：3 年対比)
- 資料 4 新規求人・求職数(全国)
- 資料 5 有効求人・求職数(全国)
- 資料 6 有効求人倍率(東北管内)
- 資料 7 有効求人倍率(全国)
- 資料 8 最低賃金の改正に関する検討資料
- 資料 9 「めざせ！海技者セミナー in 仙台」開催結果概要
- 資料 10 「東北初・練習帆船『海王丸』でシップスクール開催！」プレスリリース
- 資料 11 新聞情報

(参考資料) 「海事レポート 2016」プレスリリース

## 議 事 概 要

### ◎開 会

#### 【阿部海事振興部次長】

議事に入ります前に、新しく公益委員に任命されました森委員からご挨拶を賜りたいと思います。

#### 【森公益委員】

初めまして、国立宮古海上技術短期大学の校長の森でございます。よろしくお願いいたします。

今回初めて参加させていただきました。少し自己紹介させていただきますと、今年4月1日に宮古海上技術短期大学の校長として着任しました。出身は長崎県の諫早市です。昭和55年に学校を出まして、それから外国航路の原油タンカーに約8年ほど勤めまして、それから超高速船と言われていたジェットフォイルの運航とか、あと管理業務とか、航路開設とか、そういう仕事に10年間携わりまして、平成10年に当時館山海技学校と言っていましたけれども、そちらに採用されました。それから、館山は長くて8年間おり、その後全国の学校を転々とし、波方、九州の長崎の口之津、佐賀の唐津、静岡の清水に配属され、もう一遍口之津に戻り、今年の4月1日に宮古に着任しました。北のほうは初めてで、まだ7月の20日前後ですけど、朝は非常に寒くて、びっくりしました。今日も最高気温20度ぐらい、大体17～8度でずっと推移しています。3月の終わりに区界峠を通ったとき、まだ雪がたくさんあってびっくりしたのを覚えています。

これまで18年間、担任とか、あと指導課長、学生課長、教務課長としてやって今回初めての校長で赴任しましたので、そういう意味では求人、就職関係の業務には長く携わっておりますので、その経験をベースに皆様のお力になればと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。（拍手）

#### 【阿部海事振興部次長】

〔第92回船員部会の成立について報告〕

〔配付資料確認〕

### ◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

【長谷部部会長】

それでは、議事に入りましょう。お手元にございます議事次第(1)管内の雇用等の状況について、事務局からご報告願います。

【澤村船員労政課長】

それでは5月の船員職業安定業務の取り扱いの概要をご説明いたします。

最初に、求人・求職に関する5月の状況についてご説明しますが、資料1ページと2ページは3ページ以降の資料をまとめたものになりますので、詳細は3ページからごらんください。

まず、ここで、前回の部会で平岡委員よりご指摘ありました商船の貨物船の区分についてご説明します。

ご指摘は、限定近海区域の船舶を近海ににくくりにすることによって、実際非国際の近海船も近海に入れることで実態に即して整理されていないのではないかといたお話でございました。

実際のところ、窓口に求人・求職が出された際は、全国の運輸局一律で船員職業安定業務管理システムに入力することになっております。このシステムでは、貨物船のくくりが遠洋、近海、沿海、平水を選択するだけということになっており、仮に限定近海の船舶が来ても、入力上は近海を選択せざるを得ないようなシステムになっているということです。このシステムで整理されている関係で、全国的なデータですとか、こちらで毎月報告している内容も、貨物船についてはその4つの区域でしか分けられないということになります。システム上で非国際の近海船を見分けるには、それぞれの航路、どこどこからどこどこまでとか、日本一円とか、そこで見ていくしかないというような状況になります。

この件につきましては、従来どおりの区分けでご了解いただくということをお願いしたいと思います。

〔澤村船員労政課長より資料1から資料7に基づき報告〕

【長谷部部会長】

ありがとうございました。

ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

全体としては、漁船で言えば全国の半分ぐらいが東北管内ということで、短期的にはちょっと増えたけど、傾向的には昨年後半以降、ずっと求職が絶対数が減り続けている中での求人数も減ってきていて、余りいいことはないという現状です。余り率で見ないほうがいいということでしょうか。なかなか上向きではないような状況がここから読み取れるということでしょうか。引き続きウォッチングしていきたいと思います。

それから、平岡委員から前回出していただいた「実態をあらわしていないのでは」というご意見でしたが、入力条件として全国的にフォーマットが決まっているので仕方ないということで、本来はそういう形であるんだけど、それがきちんと数字に出てこない、そういうデータだということに注意して読みなさいというご意見として承ってよろしいですね。

【平岡使用者委員】

ええ。

【長谷部部会長】

気をつけて読んでいきたいと思います。どうもありがとうございました。

今後改善される……

【澤村船員労政課長】

機会がありましたら、本省のほうにも要望は伝えたいと思います。

【長谷部部会長】

長期的に。実態をあらわすようにということですね。

【澤村船員労政課長】

はい、そうです。

【平岡使用者委員】

求人を出した場合も、近海になってしまうということですね。

【澤村船員労政課長】

そうですね。

【平岡使用者委員】

それを見たら船に乗りたいという人は、今いないんです。

こちらから全部連絡とって、何とか乗ってもらえないかというのが実態です。だとすると、やっぱりおかしいといえばおかしいですね。近海のところに入ってしまうとなると。

【澤村船員労政課長】

その中で選択していくしかない状況です。

【長谷部部会長】

貨物に関しては、そういう問題が多々あるということですね。はい、わかりました。ありがとうございます。

いいですか、それで。

【平岡使用者委員】

はい。

【長谷部部会長】

注意しろということですので、皆さん、よろしくお願いします。

それでは、今の件、ご了解いただいたということで、よろしいですね。はい、ありがとうございます。

(2) その他

【長谷部部会長】

それでは、次に議題の(2)その他に入ります。

事務局のほうから資料の8から10についてご説明ください。お願いします。

[澤村船員労政課長より資料8から資料10に基づき報告]

【長谷部部会長】

ありがとうございます。

いろいろとご意見あろうかと思えます。どうぞ、ご質問、ご意見等、自由に。

(「いいですか、じゃ、私」の声あり) 高橋委員、お願いします。

【高橋(真)部会長代理】

大中型まき網だったと記憶していますが、最低賃金は一応決まっているのですが、そこに現実の賃金が最低賃金を下回っている実態があるということが去年の最賃でも問題になって、「最賃より下回っている業種があるのに最賃を上げるのはおかしい。」という議論がありました。なので、実態がどうなっているかというのは、いつごろ調べられるのか、あるいは調べないのか、その辺を教えてください。

**【澤村船員労政課長】**

それにつきましては、これから諮問するとなってから調査を行います。

**【高橋（真）部会長代理】**

諮問するとなってから調査するのですか。カットしてもらって構わないんですが、ほとんどの業種は大体最賃より上に決まっていますが、大中型まき網だけは、2社か3社下回っているところもあって、「下回っている実態があるにもかかわらず上げるのはおかしい。」とずっと紛糾して、まとまるのが非常に大変だったということがありました。できれば最賃の諮問があるかどうかは別にしても、前もって調べておいていただきたい。つまり最賃があってから調べなさいと言われて、調べてありましたとなると、1回でいけばいいのですが、2回、3回という話になって、もうまとまらないのではというところまでいったことが去年ありました。前もってという言い方変ですけれども、1回目の段階でそういう情報を教えてもらわないと、もし万が一諮問があった場合に、まとめる側としては、結構しんどいです。会議の最中にそういう資料が出てきて、「実態が低いのにさらに上げるのはおかしいだろう。」という話になってくると、それを説得するのが大変になります。なので、もし調べられるのであれば前もって調べておいていただけないかなというのが要望です。

**【長谷部部会長】**

ありがとうございます。前回も同じような意見が出て、指導を行政的にまずやるということが大事かなと思っていました。それで、その問題が最賃部会レベルでまた出てくると大変なので、まず最賃がきちっと制度として効力を持つように、行政指導はしないのかもしれないけれども、何らかの形でお考えいただくということが一番最初に必要かなと思いました。その後で、それにもかかわらず、もし実際に諮問があるということを前提に調査がなされたときに、そういう現実が出てきたら、それを前提としながらご議論いただくということになるのかなと。順序はそんなことかなと思いました。そうでないと、がたがたすると思います。

**【佐藤使用者委員】**

旅客船の場合は、最賃が諮問される・されないは別として、毎年6月の実態調査をやっているようです。

**【長谷部部会長】**

そういう話は聞きましたね。

**【佐藤使用者委員】**

ですから、こういう要望があるということは、漁船は毎年調査をしないのかな。

**【高橋（雅）労働者委員】**

いや、報告はしていると思います。実態調査はやっていると思います。

**【長谷部部会長】**

だから、実態調査が事実上の行政指導みたいな機能を持っているということも聞きました。

**【佐藤使用者委員】**

我々の業界でも最賃に抵触する事業者の中にはいます。だから、そういう事業者を役所で指導して賃金を上げてもらうようにしているようです。

**【正路労働者委員】**

たしか私去年も最賃部会の中で、最賃を下回っている業者があったので、行政のほうに指導とか十分にしてくださいという要望はしておりました。

**【鈴木労働者委員】**

沖底でもそれがあって、2年連続そういうのが何件かあったので、それはちょっとまずいんじゃないの、遡及してやるのと言ったら、そこまでしないみたいな話をしていました。そこを何とか直してもらわないと。

**【長谷部部会長】**

ということで、紛糾する前にまとめますが、最初に申し上げたとおり、実態調査をしているはずだという佐藤委員からのご情報をいただきましたし、恐らくそうだったなという記憶もありますので、そこら辺をきちんと確認いただいた上で、しかるべき形で、指導かどうかわかりませんが、効力を発するようなことをやっていただいた上で、必要であれば調査に入るという手順をとっていただければ紛糾しないかなと思います。やっているにもかかわらずという一項が入ることによって交渉というのは随分違ってくると思います。どうぞそこら辺をご考慮いただければと思います。よろしくお願いします。

よろしいですか。

**【佐藤使用者委員】**

ただ、船員保険の算定基礎届が9月なんです。普通は社会保険だと4、5、6月の3カ月分を平均にしてやるんですが、船員保険は9月なんです。

**【長谷部部会長】**

今の点について、行政的にもうちょっと丁寧に説明していただけますか。

【佐藤使用者委員】

運輸局と社会保険と違うから。

【長谷部部会長】

そうですか、わかりました。

そのところでチェックがかかるはずなんだけれども……。

【佐藤使用者委員】

いや、チェックはかからないですね。

【長谷部部会長】

かからないんですか。

【正路労働者委員】

最賃ですから厚労省は関係ないです。

【高橋（雅）労働者委員】

保険の算出だけです。

【高橋（真）部会長代理】

そうすると、その年の算定基準を陸上の場合4、5、6月でやるんですけど、9月まで待った上で、そこで基準を決めるということですか。

【佐藤使用者委員】

そうですね。基本給と出来高とかそういうのがあって、それを平均にとってならずようなやり方です。

【高橋（雅）労働者委員】

漁船の場合は、水揚げを終了してからの計算になりますので難しいんです。だから、前年度というか、期間がずれるというか、みなしで計算するという感じになってしまいます。

【佐藤使用者委員】

事業者とすれば、船員保険の負担金というのがすごいからね。だから、そのところを抑えるかもしれないし……。

【高橋（雅）労働者委員】

でも、計算は総収入で行っています。

【長谷部部会長】

そこは今の議論の枠の外側で動いている事実ですね。最賃がきちんと機能して

いるかどうかという点を行政的にまた別なところでちゃんとチェックしていただ  
いてということには変わりはないということで、よろしいですね。佐藤委員の情  
報というものを十分頭に置きながら全体を進めていただければと思います。

【高橋（雅）労働者委員】

前回、正路委員から局に最賃を下回っている業者の調査はどうなっているのか  
という質問をしたと思いますが、どうなっているのでしょうか。

【長谷部部会長】

お答えいただけますか。変わったばかりで大変かもしれませんけれども。

【澤村船員労政課長】

調査は例年これからということになります。

【高橋（雅）労働者委員】

いえいえ、指導の部分です。

【澤村船員労政課長】

指導の部分ですか。

【高橋（雅）労働者委員】

去年も最賃終わった後に実態として最賃をクリアしていない会社が出ていたわ  
けですよ。その時点で調査というか指導するという話だったんです。それが行  
われていたのか、行われていなかったのか。それで、なおさら今回前月質問しま  
したので、その部分でやられているのか、やられていないのか、再度私から確認  
させていただきたいと思います。

【長谷部部会長】

答えは出ますか。出なかったら、また次回ということで。問題点の把握は十分  
にしたと……。

【澤村船員労政課長】

認識はしております。

【長谷部部会長】

ということで、次回以降また適切な時点で情報等提供いただければと思います。  
それでよろしいですか。

【高橋（雅）労働者委員】

はい。

【長谷部部会長】

はい、ありがとうございます。

それでは、ほかにご質問、ご意見等ございましたら。通常の情報提供でも結構ですが。平岡委員。

**【平岡使用者委員】**

先月の委員会でマンニングという言葉を使ったんですが、今は船員派遣事業ということになっていますよね。だから、マンニングという言葉撤回したいと思います。船員派遣事業と船舶管理会社の2つですよ。

**【長谷部部長】**

ありがとうございます。勉強になりました。

**【高橋（雅）労働者委員】**

16日に行われた海技者セミナーの件で聞きたいのですが、30歳未満の方は学生さんでしょうか。また、30歳以上の方が7名いると言いましたが、主にどういう方々でしたか。離職された方、それともまだ在職されていてセミナーに来たのか、どのような業種の方なのか、わかる範囲で教えてください。

**【澤村船員労政課長】**

2番の区分けのところで、離職中が6名、在職中1名ということになっています。離職者6名については、状況までは確認していません。

**【高橋（雅）労働者委員】**

内航なのか、漁船なのか、わかりませんか。

**【澤村船員労政課長】**

はい。

**【高橋（雅）労働者委員】**

わかりました。

**【長谷部部長】**

よろしいですか。（「はい」の声あり）はい、ありがとうございます。

それじゃ、この資料に関しては、ご質問、ご意見等終わって、ご了承いただいたということでよろしいですね。何かありましたら、また随時ご意見、ご質問等をお寄せください。よろしく願いいたします。

それでは、意見交換、情報交換ということで、労働者委員のほうからごさいますでしょうか。

**【高橋（雅）労働者委員】**

それでは、私のほうから。

来月の10日ですが、東北地区の船員さんの教育機関、海員組合、海運会社、水産関係の会社との懇談会を開くことになっています。この趣旨としましては、若い船員さんの受け入れ・送り出しに関し、いろいろ接する場及び機会が少ないので、そのような場を持って幅広く若い人たちを船のほうに取り込もうということで、この懇談会を開くことになります。

今回、東北では初めての開催ですが、ほかの地区では労使懇談会というような懇談会を開いています。一番長いのは九州で、もう8回開いているみたいで、それがなかなか機能して、新卒の若い人を企業が受け入れているという実態があります。

**【長谷部部会長】**

ありがとうございます。

先ほど申しましたように、求職のほう絶対数が少なくなっているということは、全体として労働力市場は縮小しているということですから、深刻な問題だと思います。どうぞ船員組合のほう頑張ってくださいと思います。ありがとうございます。

ほかには。

**【正路労働者委員】**

先月、私のほうから7月5日から7日までF O Cキャンペーンをやりましてという報告をしておりましたが、その結果についてお知らせしたいと思ひまして発言いたします。

その3日間で東北管内、トータルで13隻来まして、特に問題あるような船はなかったと報告しておきます。全国では88隻行っております。問題もなかったので、よかったと思っています。以上です。

**【長谷部部会長】**

はい、ありがとうございます。全体として良好ということですね。

ほかにもございますでしょうか。

**【鈴木労働者委員】**

いいです。

**【長谷部部会長】**

鈴木委員、いいですか。

じゃ、それじゃ使用者側のほうはいかがでしょう。情報、頂戴できますか。  
佐藤委員。

**【佐藤使用者委員】**

今日の新聞に1月から6月までの訪日外国人が1,180万人ぐらい来ているということで、1カ月早く1,000万人を達成しました。その中、東北にはほとんど来ない状況で、いかに東北に呼び込むか、国では予算がたっぷりついているような気はするが、なかなか難しい展開だなと思っております。

片や〇〇さん（旅客船事業者）に聞いたら、△△島航路にはお客様がインターネットで調べて、朝に満員になるくらい乗っていくという話も聞いているので、Wi-Fiなど使ったりいろんなことをやれば、期待はできるのかなと思っております。まだまだ利用者を増やすまでに至っておりませんので、これから少しずつ頑張っていきたいと思っています。

**【長谷部部長】**

よろしく申し上げます。ありがとうございます。

ほかには。平岡委員。

**【平岡使用者委員】**

外航船の受け入れの話が出ましたが、酒田港にも来年の8月2日に外航クルーズ船第1号の寄港が決定しました。昨日、木曜日に県知事が発表したのですが、1,800人乗り、総トン数が5万7,000トン、（「どこから来るの」の声あり）イタリヤです。いろいろ山形県でもかなり力を入れてやっていますが、やっと現実になりました。1年先ですけど。

**【長谷部部長】**

それは、旅客船……

**【平岡使用者委員】**

旅客船です。外航クルーズ。

**【阿部海事振興部次長】**

新聞情報の29ページに入っています。

**【平岡使用者委員】**

載っていますか。早いですね。

昨日の新聞、今日の新聞かな。

**【阿部海事振興部次長】**

河北新報は21日でした。

【平岡使用者委員】

そうですね、水曜日にやったんですね、会議。

【佐藤使用者委員】

仙台港区には、クルーズ船は余り入らないです。

【長谷部部会長】

地震のときは来ていましたね。

【佐藤使用者委員】

仙台港はコンテナ船等の外航船は来ますが、旅客船の誘致にはなかなか力を入れていないです。

【高橋（雅）労働者委員】

旅客船は石巻港のほうが多いです。

【佐藤使用者委員】

そうですね。

【長谷部部会長】

外国船ですか。

【高橋（雅）労働者委員】

外国船です。ただ、去年は風で接岸しなかったと言っていました。国内船は、1～2回は来ていると思います。

【佐藤使用者委員】

飛鳥クルーズというのが来るんです。石巻に来られなかったけど、うちのほうでキャンセルになったら、今度は仙台港に急に入って、それでまた復活したようです。

【森公益委員】

宮古のほうも旅客船誘致に力を入れているようで、4月から3隻入りました。日本の旅客船ですけれども、ぱしふいっくびいなすが2回です。6月に飛鳥が1回来ました。

【長谷部部会長】

クルーズ船の寄港が各地で少しずつあるという話ですね。隠れて見えないんですかね。

【平岡使用者委員】

クルーズ船の一番の利用客は中国人のようです。中国の外航クルーズというのは5,000人ぐらい乗っているんです。そうすると、受け入れる側は対応がちょっと不可能だと思います。余りにも人数が多くて、バスも東北中から集めなきゃならない。それから食事するのも……

【佐藤使用者委員】

今、観光バスが足りない。ここの〇〇交通でも、観光バスをやめたんじゃない。運転手がいなくて、高速バスに運転手をとられるから。

【長谷部部長】

そうでしたね。転用したという話聞きましたよね。

【平岡使用者委員】

バス100台以上集めなきゃならない。となると、その地域だけでは無理だと。東北中からバスを集めなきゃならないと。そうするとコストもかかるし。中国人は爆買いが目的なんですよ。寄港地ではそれに期待しているだけなんです。

【佐藤使用者委員】

爆買いはもうだめなんです。

【長谷部部長】

そうですね。爆買いはきついでしょうね。

【佐藤使用者委員】

自国へ買って持っていくと、税金がこれまでの何倍も上がったんです。だから、今爆買いはなくなっています。

【長谷部部長】

通信販売で買っているようです。

そういうことで、別のご指摘もしていただいて、運輸局もいろいろと苦労しているようですので、そこら辺の情報交換をしながら、ぜひ業界としても頑張りたいと思います。

それ以外に何かございますでしょうか。よろしいですか。

ないということでしたら、そろそろ用事もあるという方もおられますので、これで終わりたいと思いますが、よろしいですね。はい、ありがとうございます。